

「愛顔(えがお)あふれる愛媛づくり」

令和2年度「知事とみんなの愛顔(えがお)でトーク」知事講話

開催日時：2.8.26(水)

開催場所：西予市図書交流館

皆さん、おはようございます。今日は皆さんもそれぞれお忙しいと思いますけれども、「愛顔でトーク」にご参加をいただきましてありがとうございます。いつもだったら簡単に全般的な話をさせていただくんですけども、今コロナの問題が全国で対応に追われているような状況ですので、少し触れさせていただきたいと思います。

【新型コロナウイルス感染症】

(経緯)

今年の2月にダイヤモンド・プリンセス号という客船でコロナが発生し、本当に日本でも身近な問題として感じられるようになりました。県内でも乗船客の方が帰ってこられたこともありまして、幸いなことに全員陰性だったんですけども、それが2月の終わりぐらいだったと思います。まあ以来6カ月くらいの月日が流れているんですけど、いまだに終わっていない、収束の状況が見えない段階でございます。恐らくコロナワクチンが開発されるまでは、どうやって向き合っていけばいいのか難しい課題でありますけれども、経済のことも考えながら感染を抑止するという非常に難しい課題に挑戦をしなければならない状況が続いていくんだろうというふうに思っています。

(感染回避行動)

愛媛県でも最初の頃は松山市を中心にクラスターが発生するなどいろいろ対応が続いていましたけれど、7月以降は散発的な陽性確認は発生していますが、県民の皆さんが県から市から呼びかけさせていただいております感染回避行動、これを日常生活の中で実施していただいている結果だと思います。感染回避行動をできるだけ分かりやすい言葉にしようということ、3つございます。うつらないよう自己防衛をしよう。マスクを着けたり手洗いしたり、手指消毒をしたり、人とある程度距離をとったりというような自己防衛。2つ目がうつさないよう周りに配慮。これは自分がもしかしたらということのを常に考えてソーシャルディスタンスに気を付けたり、本当にいろんなところで気を使うと大変なんですけれども、うつさないように周りに配慮しましょう。3つ目が習慣化しよう3密回避。大体いろんな経験則で分かってきたのは、換気が悪いところ、密集しているところ、人と密接するところ、こういった所でクラスターが発生したという事例が多発しましたので、こういった所は避けるというふうなことで、この3つを一人一人が考えて生活をしていけば、散発的な陽性は仕方がないと思うんですが、拡大は抑えられるだろうというふうなことで実行していただきました。その結果、7月以降は10万人当たりの感染者数でいえば47都道府県中43番目ということで、かなり落ち着いて対応ができているなという状況になっています。

(県内の感染状況（現況）)

それでも先ほど申し上げましたように散発的な陽性確認は発生しています。どういうふうに行っているかと申しますと、国の全体的な方針はあるんですけど、医療崩壊だけは何とか避けなければいけない。ともかく何よりも大切なのは人の命なんで、重症患者への対応というのをしっかりと行うというふうなことで、まず何か具合が悪いなどになったら、大体皆さんかかりつけ医のお医者さんのところに行かれます。かかりつけ医のお医者さんが判断すると保健所に連絡が入ってきます。お医者さんから要請のあったものについては全部検査をするというのがまずベースになります。その上で、もし陽性が出た場合は保健所の職員が地区ごとにありますから、走り回って行動歴を把握していきます。この方はどこへ行ってたんだらう、誰と接触したんだらう。そして感染のリスクがあるのが濃厚接触ですから、これは10分以上、2メートル以内で接触があった方とか、という判定をしてくまして、濃厚接触者の方々についてはともかくまず自宅待機してください。すぐに検体を採取して検査に移していきます。濃厚接触者の場合は、遅れて症状が出てくる可能性もありますから、例えば潜伏期間があってすぐに検査をしない場合もあるんですね。濃厚接触者なんですけど潜伏期間を考えると明後日検査になりますとか、今日やりますとかそれは人それぞれの接触度合いによって変わってくるんですが、濃厚接触者の方の検査をする。この方々はさっき申しましたように遅れて発症する、1回陰性が出て遅れて発症する場合がありますので、2週間自宅待機を陰性が出た場合でもしていただきます。その中で健康観察をしていただき、2週間たって症状が現れず陰性の場合はもうこれで大丈夫ということになっています。

クラスターが発生する可能性がある場合や学校、あるいはお年寄りの入っている施設こういったところは、ばあっと広がってしまう可能性もありますんで、この場合は濃厚接触者だけじゃなくって、ちょっとでも接触があった場合、場合によっては全員一気に検査を集中的に行うということも実施しているところでございます。

まあそういうふうな形で、徹底的な調査とそして速やかなタイムリーな検査で事例ごとに囲い込んでいく。2週間は念のため再発生の可能性も考えて、ともかく健康観察を行っていく。2週間たてばこの段階っていうのは囲い込み、事例の囲い込みということになりますから、ここさえできれば、まずこの例から外に感染が広がることはなくなっていく。そして2週間たてば全員オーケーですから封じ込め、事例の封じ込めというふうな形になりますんで、これを丁寧に丁寧にやっているのが今の県の状況であります。ただ例えば東京であるとか大都市になりますと、もう最初はこれをやっていたのですが、もうそれを超えてあっちからもこっちからもあっちからもこっちからも感染経路の不明な例がどんどん出て、もう追っかけられなくなったんですね。こうなると市中感染ということになりますんで、全く次元が変わってしまい、そしてどんどんどんどん病院に人が入るようになりますから完全に医療がパンクするというようなことになる。そうはならないように、ともかく早め早めの対応が必要であるというふうな考えて、全員で力を合わせてやっているところでございます。

(医療提供体制)

今、愛媛県には、実は2月の段階ではコロナに対応できる病院の病床、ベッドが70ぐらいいしかありませんでした。現在はどんどん、病院も大変なんですね。そこに構えると使え

なくなりますから収入がなくなります。これがニュースによくでる病院の経営が悪化しているという原因なんですけれど、しかしそうは言っていないので、ある程度のバックアップをしながら確保しています。現在、愛媛県では重症者の方が出た場合にお入りいただくベッドが33ございます。それからこの重症の中には集中治療室であるとか、人工呼吸器であるとか、エクモと言われるここに管を付ける最後の治療、こういったのが用意されているのが33床、それからそこに至らない中等症、病院の中で完全に隔離されて院内感染がないようにしっかりとした対応をしている病床がその他に196床、これで229。もう一つは無症状の方が、病院にいなくてもそこで過ごしていただければ健康観察ができるという方々によってはお入りいただく、宿泊施設と我々呼んでますけれど、これが松山市に今稼動しているのが67室、部屋ですね。ホテルを借り切ってますから。ここが増えてきたら、さらに契約をその時点でやりましょう、というところが50室ありますんで、まあ簡単に言うと、重症者が33、中等症の病床が196、そして宿泊施設が117、346の構えができています。70だったのが346になったと、単純にそう思っていたらいいんじゃないかなというふうに思います。

現時点で入院されている方は10人ぐらいございます。クラスターが松山で発生した時のピークが28でございました。28人が今までのピークで、それに対して346あるということなんで、ある程度の構えはできているということはお伝えしたいなと思っています。

(検査体制の整備)

それから検査も当初はこれだと認めませんよ、という国のルールがあって、その検査は愛媛県の衛生環境研究所というところにある1台だけだったんです。今それを4台にしていますので1日200検体ぐらいの検査はできるような体制になってきてます。こうしたように対応をしながら充実を図るといようなことで、さらにこれから秋冬にかけて気温が下がってきた時がちょっと心配なんです。その時が本格的な波がくる可能性が十分ありますし、インフルエンザもその時には恐らく流行し始めますんで、難しい対応を迫られると思います。今、医師会の先生方ともどういふふうにしていこうかと。例えば、今ドライブスルーで検体を採取する場所が松山にありますけれど、それを圏域ごとに置けないかとか、これはお医者さんの協力がなかったらできないんでそういった相談をしている最中で、秋には充実をさらに図っていききたいなあとというふうに思っています。

(事業継続と経済活動回復への支援)

ただ一方で、本当に難しいのは感染を抑えるというのが最大のポイントになりますけれども、それを完全にやれば何もするなということになりますから、これだと経済が死んでしまいます。新たに経済死、もう商売にならない、働く場所がない、収入がない、経済死という問題が出てきてしまいます。これを微妙にハンドリングしながらやっていかないといけないのが難しさだと思いますけれども。例えばいろいろ考えてみたんですが、東京で早い段階で休業要請というのを出しました。危ないからやめてください、お店閉めてください、そういうのがありましたよね。東京都はお金持っていますから、休業したところには協力金出しますということをやられていました。ただ他の地域は東京ほど財源があるわけではありませんで、愛媛県の場合は休業は、極力飲食店なんかに休業要請しなかったんですが、そのかわり3密回避のための工夫の取組みをしてください。そのために協力金を出しますという全く違うやり方をさせていただきました。開けるけれども対策をすると

いうところにお金を使おうというやり方で、これを活用していただいたところが県内で6,000店舗ぐらいございます。アルコール消毒をやったり、テーピングで密にならないように工夫したり、あるいはアクリル板を使ってお客さんの間をとったりと。それはお店ごとに工夫の仕方が違いますが、こういった休業よりも動かしながら対策をするということで乗り切るといのが愛媛版協力金というものの中身になっています。それと同時にもう一つ利用をたくさんしていただいたのが、異業種で新たなコロナ禍におけるチャレンジをする。例えばテイクアウトを実施するお店に対してのバックアップ。あるいはテイクアウトを始めようとしたところに、運ぶためにタクシー会社と連携してビジネスをしようというところへの補助金とか、そういう前向きな結果が残る、休業要請して給付金を出した場合はその場限りのお金で終わってしまいます。我々議論したのは生きてお金をしようということで、動かして終わった後もその対策は生きていくということを考えて協力金ということは議論していたんですけれども、こちらの新しいチャレンジのほうも5,000ぐらいの方々が活用をしていただきました。すなわち愛媛県の場合はどこよりも対策をしているお店が多いというふうなことが言えるのではなかろうかというふうに思っています。

(GoToキャンペーン)

こうした工夫をしたり、今問題になっている旅行ですね。旅行は国全体ではもう非常事態宣言もなく、都道府県間の移動も自粛要請はないですから自由なんですけれども、ただ7月に入ってからおかしいなということは感じたんですね。というのは東京の落ち着いた陽性確認が一日50人も数えるようになった時が7月の頭だったと思います。これは様子がおかしいので、旅行は愛媛県の場合、少し慎重にしたほうがいいんじゃないかということで、6月時点から構えていたんですけれども、一気にばあーと旅行をお招きするのではなくて、最初は県内で次に感染が市中感染まで至ってないコントロールできている周辺に、そしてさらに周辺にと徐々に広げていくほうがいいだろうということで、当初は6月に愛媛県の旅行については割引の補助金を出しましょうということを出したんですが、6月は県民の皆さんのみやりました。県内旅行だけに出す。7月に入ってからは四国を対象にして、8月になったら様子を見て全国へとは考えていたんですけれども、そういう状況になりませんでしたので、現実的には6月県内、7月四国・広島・大分、そして8月からは中国地方と九州の一部というところを対象にしています。実際先週末データが出てきたんですが、皆さん本当に呼びかけに応じてくださいます、旅行を前年比でいうと7掛けぐらいにはなっているんですが、何とか回っていると。割引の補助金の利用者も7割が県内、県民ということになってましたので、極力感染拡大地域からの来訪はある程度抑制することにはつながったのかなあというふうには感じています。

(高齢者施設への対応)

そんな中で気を使っている2つのうち、1つが老人保健施設です。ここでもクラスターが発生してしまった場合は、お年寄りが多いですから重症化する可能性が非常に高いということで、しかも職員さんがケアもしますからその人手がいなくなってしまう。そこで県内の同じような施設の皆さんに助け合いをしませんかということで、もしどこかでそういった事態が発生したら、Aのところみんな人を派遣するような助け合いの仕組みができたということで、E-WELネットという名前呼びかけをさせていただきました。皆さんやっぱりいざという時のことを心配されているのか、自分たちも参加したいという

ことで、二百何十の施設の方が参加して、いざという時はうちの施設はこの職員を担当として派遣しますと、事前に決めてもらっています。まだ活用されていないのですが、そういう形でお年寄りのケアが支障をきたさないような構えということだけは仕組みとして出来上がったところでございます。

(学校への対応)

そしてもう1つが学校です。学校については、学校の先生方も本当に大変です。一部では9月入学という声も一時上がったんですけども、そんなの現実問題、3カ月の準備期間で一気に9月入学ってできるはずがないんですね。なんでこんなことを議論するんだろうと不思議に思ったんで、いろんな意見があろうかと思うんですけど、今年の9月からやるなんて絶対に反対だ、という声を上げさせていただきました。これはだいぶ落ち着きましたけれども。学校はコロナで全国一斉休校もありましたから、今その遅れを取り戻すためにどうすればいいかということで、いろんな工夫がなされています。残念ながら夏休みの期間が短縮されて、昨日から始まった公立学校もありますけれども、先生もどうやって取り戻せばいいか工夫して授業を始めてくれています。それからすでに県立高校、市のほうでもそれぞれ取り組まれると思いますが、この際に1人1台の端末を整備するという準備もし、それからオンライン授業での学習支援アプリの導入もいたしまして、これから徐々に先生方がそれを通常の授業の中で活用してトレーニングを積み重ねていただくというふうなようになってまして、もし本当に大きな波が来た時にオンライン授業でカバーできるような、これまで以上の体制を取るための準備を今しているところでございます。

いずれにしても、本当にご心配の方もいらっしゃると思いますけれども、学校はパーテーションをつけたり、先生がフェイスシールドを着けたり、日々の活動の中での注意事項を喚起したりですね、細心の注意を払いながら授業を開始しておりますので、ここは各学校の取組みを信じていただけたらというふうに思います。それでもうつるのがこのコロナでありますから、もしもの時は先ほど申し上げたような早期の調査と、そして検査と、そして囲い込みということを丁寧に行っていきますので、この点をお知り置きいただけたらと思います。

(個人情報への配慮)

そんな中一番悩まされているのが、やはり誹謗中傷やあら探し、SNSでのやりとり、こういったことで、これは全国的な大きな問題にもなっています。こうしたことがニュースになると、実際感染された方は怖いですね。病気以上に怖いです。

あんたら何だ、家族に誰がいるんだ、どこに行ってたんだ、どんどん飛び交うんですよ、こういうのは。すると感染した自分だけでなく家族への波及もある。治ったあとも続き、本当にまだ大丈夫なのか、と治っているのにもかかわらず、そののちまでいろんな問題が生じる例が出ている。こうなってくるともう何も言いたくありません、怖いです、あら探しされるんじゃないか、根掘り葉掘りやられるんじゃないか、だから調査には協力できませんと、こうなってしまうんですね。そうすると、保健所の職員が調査に行っても、何にもしゃべりません。そうしたら先ほどの感染囲い込みができなくなってしまうんです。これが一番怖いんです。

そういうこともあるんで、皆さんからすれば、例えばよく言われたのが、地域の名前を出しました、もうともかくご家族とご本人の意向で、怖いんです、だから地域名を出さな

いでほしい、という強い強い意向がありました。それをやっぱり受けてあげなければ協力してくれなくなってしまう可能性もありますんで、あえて東予地域という発表になっているんですけど。中には市の名前を出さないと分からないじゃないかと、があつときます。でもそれをやったら、ご本人たちの意向をそぐ形になることもありますし、その方1人が陽性確認されても濃厚接触者も全員大丈夫でしたと、周りの人たちも全員大丈夫でしたということになればもう広がらないです。そうしたら特定する必要は全くないんです。僕が申し上げたのは、もし先ほどの段階では東予地域とか言いませんけれども、他に1人でも陽性者が出て、感染が拡大するような兆候があるような場合は出しますよ、というふうに申し上げます。ですから今回2ケースとも、たったその人1人だけの陽性で終えましたので、何々市だった、どこどこだったと特定する必要もないというふうに判断をしています。

こういうことなんで、毎回毎回呼びかけているんですけど、そりゃあ知りたいという気持ちは人間ですから分かります。でももうちょっと考えていただいて、当事者になった場合どんな思いになるんだろうっていうことを考えれば、SNSでの、SNSってすごく便利なものなんですけど、便利であるが故に使い方を間違えれば怖いもんでありますから、そういうあら探しであるとか、それから断片的な情報を切り取って、いやいや愛媛県は危ないよ、もう市中感染が広がっているんだ、っていうようなことをやっぱり抑えきれずにやられる方がいらっしゃいます。呼びかけてもやっぱり全部なくするのは無理ですので、そういう意味で正しく恐れるということがとても大事になってきます。そういう情報に振り回されないでいただけたらなあというふうに切に願っているところでございます。

今、本当にコロナの問題が重要課題なんで、本当は南予ですから、愛媛県では最大の課題である、西日本豪雨災害からの復興の問題、それから少子高齢化の人口減少対策、さらには今後の長い目を見た地域の経済活性化づくり等々にも触れたかったのですけれども、これは皆さんからのご質問の中でいろいろとお話しさせていただきたいと思います。

以上です。ありがとうございました。